～Chacott Web Magazine DANCE CUBE 連載

「薄井憲二バレエ・コレクションの逸品を訪ねて」関連企画V～

～マリインスキー・バレエ公演によせて～

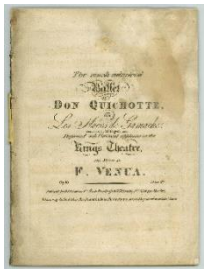
薄井憲二バレエ・コレクション常設展

vol. 68
『ドン・キホーテ』1

展示期間 ／ 2018年10月18日(木)～ 11月10日(土)
構成 ／ 森瑠依子
展示 ／ 関 典子(薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)

本展では、今年生誕 200 周年を迎えたマリウス・プティパ（1818-1910）の代表作の一つ『ドン・キホーテ』にまつわる品々を、マリインスキー・バレエ公演にあわせて、ご紹介する。

スペインの作家ミゲル・ド・セルバンテス（1547-1616）による長編小説『ドン・キホーテ』(第 1 部 1605 年、第 2 部 1615 年）を原作としたコメディ・バレエは、現在も世界中で高い人気を誇っている。我々が親しんでいるバレエは、1869 年初演のプティパ版を原典とする改訂版だが、『ドン・キホーテ』はそれ以前から度々バレエ化されていた。18 世紀初期のストーリーは、ドン・キホーテが主役で理想の女性ドゥルシネーアを追い求めて旅を続ける姿や、公爵夫人の館に招待されるエピソードを中心にしたものが多いが、徐々に金持ちのガマーシュ（原作ではカマーチョ）とキトリ（キテリア）の結婚を巡る物語が増えてきた。1801 年にパリ・オペラ座で初演されたルイ＝ジャック・ミロン振付の『ガマーシュの結婚』は、プティパ版の源といわれる。この作品は欧米で人気を集め、1830 年代にペテルブルグとモスクワでも改訂上演された。また 1841 年にオペラ座で再演された際には、プティパの兄リュシアンが出演している。1869 年、プティパは新しいミンクスの音楽により、モスクワのボリショイ劇場で自らの『ドン・キホーテ』を初演。さらに 2 年後にはペテルブルグのマリインスキー劇場でも拡大改訂版を発表した。



◆楽譜（SC-20）
1809 年にロンドンのキングス・シアターで初演された『ドン・キホーテ、またはガマーシュの結婚』(ジェームズ・デグヴィル振付、フレデリック・ヴェヌア作曲）の楽譜。

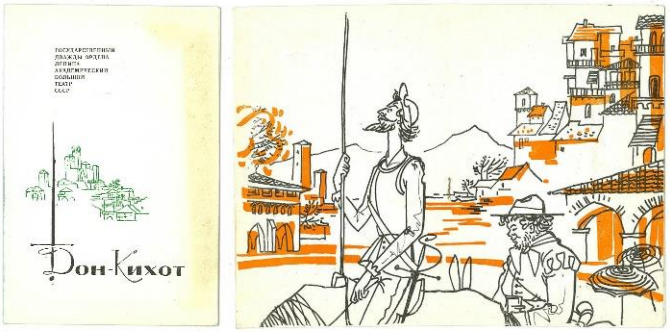
1900 年、アレクサンドル・ゴールスキー（1871-1924）はペテルブルグからモスクワにダンサー／リハーサル監督として移籍し、プティパの『ドン・キホーテ』を大胆に改訂してボリショイ劇場で上演、さらに、プティパ同様に 2 年後に改訂版をマリインスキー劇場で発表した。プティパ作品で見られるシンメトリカルな動きを避けて、個々のダンサーが個性をもって独自の動きをする現実的で演劇的な演出を取り入れたゴールスキー版は、以後ソヴィエト／ロシアの版の基礎となる。

◆葉書（PC-W-007・005）1900 年、モスクワ・ボリショイ劇場初演、ゴールスキー改訂版。左図・左から 2 人目は、キトリ役のリュボーフィ・ロスラフレワ（1874-1904）。

◆葉書（PC-B-041-08）1900 年のゴールスキー版初演で、街の踊り子とメルセデスを演じたボリショイ・バレエのソフィヤ・フョードロワ（1879-1963）。ディアギレフのバレエ・リュスにも度々参加し、『ポロヴェツ人の踊り』『シェエラザード』『クレオパトラ』などを初演した。

◆葉書（PC-B-102-7）1900 年ゴールスキー版初演でエスパーダを演じたミハイル・モルドキン（1880-1944）。後にディアギレフやアンナ・パヴロワのバレエ団で活躍し、アメリカでバレエの発展に貢献する。

◆葉書（PC-B-124-02ws）1902 年、ゴールスキー版のマリインスキー劇場初演で街の踊り子を演じたオリガ・プレオブラジェンスカヤ（1871-1962）。ダンサーとしても指導者としても一流で、ペテルブルグとパリで世界的なダンサーを多数育てた。



◆台本（LT-078）ソヴィエト時代のボリショイ・バレエの台本。全 20 ページで、味わいのあるイラストが多数含まれている。

Chacott Web Magazine【DANCE CUBE】連載中
「薄井憲二バレエ・コレクションの逸品を訪ねて」
（text 森瑠依子）

兵庫県立芸術文化センター
〒663-8204 兵庫県西宮市高松町 2-22
tel: 0798-68-0223 fax: 0798-68-0212
※ 禁無断転載・複製・引用